

適切な育苗期間の基、2葉前半の健苗を目指そう！

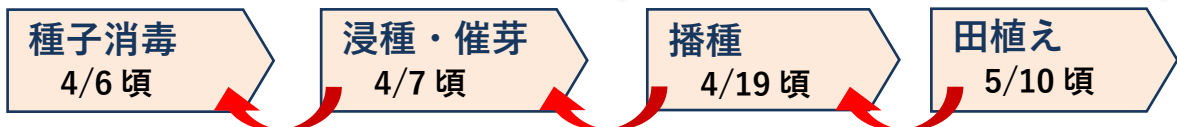
早すぎる播種・遅い田植えは「**老化苗**」につながります！
適切に種子予措を実施し、「**ばか苗**」発生を防止！

気象変動に負けない稲作を実践するために、「**根張りの良い健苗**」の育成が必要不可欠です。各作業のポイントを確認するとともに、無理のない作業計画を立てて落ち着いたスタートを切りましょう。

1 作業日程の目安

田植日から逆算！

育苗日数は20~25日を基本



例年、播種が早すぎる、また田植えが遅いことによる「**老化苗**」が見られます。また、取組みが拡大している高密度播種苗（乾籾250~300g程度/箱）は厚播きのため、育苗期間が長くなると、一気に苗が老化し葉が黄化してきます。

近年、温暖化により育苗期間中も想定を上回る高温で経過し、「**老化苗**」になりやすい気象環境となっています。5/10（土）頃の田植えであれば、4/19（土）頃に播種するなど、今一度作業計画を確認し、高温や播種量を踏まえた適切な育苗管理を実施しましょう。

2 種子消毒

種子と一緒に配布のチェックリストを確認し「**ばか苗病**」の発生を防ぎましょう。
前年に発生したところでは、要因を分析し、再発防止に努めましょう。

【薬剤消毒】

- ・種子消毒薬剤の例とその使用法は、下表のとおりです。
- ・薬液の温度は極端な低温にならないようにしましょう（10~15℃未満を確保）。
- ・薬剤処理が終わったら浸種槽に入れ、浸種を開始します。

薬剤消毒法	使用薬剤	濃度・薬量	使用方法
低濃度長時間処理法	テクリードCフロアブル (苗立枯細菌病にも効果あり)	200倍	24時間種子浸漬

※庄内地域において、スポルタック剤の「**ばか苗病**」耐性菌が確認されています！耐性菌蔓延防止のため、使用を控えていただくようお願いいたします。

農薬の使用に際しては、登録の有無を確認した上で、

①適用作物、②使用量、希釈倍数、③使用時期、④使用回数を厳守！

【温湯消毒】 うるち品種のみ可能です。必ず前年産種子を使用しましょう。

- ・保温機能がある場合、58℃20分または60℃15分（厳守）で温湯処理を行います。
（ただし、使用する機器の説明書等に温度や時間の記述がある場合は、それに従って使用します）
- ・最初に種子袋を5回程度上げ下げし、内部まで温湯を速やか、かつ十分に浸透させます。
- ・温湯処理が終わったら、浸種槽に入れ粃を十分に冷まし、そのまま浸種を開始します。
- ・温湯処理後、直ちに浸種作業をしない場合は、「ばか苗病」の再感染防止のため、脱水後に通風乾燥し粃水分を15%まで低下させ、再感染のリスクが少ない場所に保管します。

3 浸種 ⇒ 水温は10～15℃未満

水温は10～15℃未満とします。水温が上昇しやすいハウス内や日なたは避け、屋内または日陰で行いましょう。“浸種おけ”には必ず温度計を設置し、ふたで覆います。

低水温（5～6℃）での長期間の浸種は出芽揃いが悪くなります。特に浸種開始の初日はお湯を加えるなど保温の工夫をして、水温が必ず10～15℃未満になるようにします。また、浸種温度が15℃より高いと「ばか苗病」発生リスクが高まります。

品種名	積算水温	浸種日数
はえぬき・ひとめぼれ・つや姫 雪若丸・ふくひびき	120℃	水温10℃で12日間 水温12℃で10日間

薬剤消毒の場合、浸種初日から3日間は水交換せず、その後2～3日おきに交換します。

4 催芽

催芽温度は30～32℃とします（催芽温度が低いと「ばか苗病」発生リスクが高まります）。芽切れが1mm程度（ハト胸状態）に揃っていることを確認し、播種作業に移りましょう。

5 播種

老化苗は活着が劣り、初期生育不足につながりやすいため、適切な移植日から育苗日数を逆算し、播種日を設定しましょう。

	乾粃重/箱 (催芽粃重)	移植時 葉齢	育苗日数
稚苗	150～170g [※] (180～200g)	2.2～2.5 葉	20～25 日
高密度播種苗	250～300g	2.0～2.2 葉	20 日程度

高密度播種苗は稚苗に比べ、徒長・老化しやすいため、葉齢や育苗日数に注意！

※「雪若丸」は千粒重が大きいため、他品種より播種の重量を1割程度多くしましょう。事前に播種量を確認してから播種作業を行ってください。

6 土づくり

堆肥や土壌改良資材（ようりん、ケイカル等）を投入し、初期生育の確保や品質・食味・収量の安定化を図りましょう。適正な土壌 pH は 5.5～6.0 です。

徹底しよう！ 農業機械の安全対策